
Blood

hisa

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B l o o d

【Nコード】

N 7 2 7 1 A

【作者名】

h i s a

【あらすじ】

誰にも言えない、叶わぬ思いを秘めた少女の話。この想を受け止めて欲しいのは・・・

B l o o d

あたしはいつもここから飛び出して行きたいと思っていた。早ければ早いほどいい。今すぐにでも、この瞬間にでも。

教室の窓枠に寄り掛かり、ぼんやりと見上げた空はこの上ないくらい晴天で雲一つ浮んでいなかった。

ああ、今すぐにでも、この空へ飛び出して行けたなら――

――
思うだけなら簡単なのだ。

たかだか十七歳の小娘のあたしだってそのくらいの事は把握している。簡単に出来れば誰も苦労はしないのだ。

あたしは手にしていた中間テストの答案用紙を一瞥し、びりびりに破いた。

こんな点、採りたくたってなかなか採れるもんか。

独り毒づいた。頭の悪い自分にうんざり。

「ばいばい」

細々に千切った、ただの紙切れになった答案用紙を紙吹雪の様に外の世界へ放った。

はらはらと舞う元答案用紙。明るい陽射しの中どこまでも風に乗って飛んで行った。羨ましかった。あたしも飛んで行きたい。

誰も居ない教室。この時間帯は体育の授業中だった。あたしは遅刻して来たのをいい事に誰もいない教室でのんびりと皆が戻ってくる数十分を過ごしていた。

誰もいない教室は何故か不安を感じる。

普段、喧騒に包まれているのが常だから、静かだととても違和感を感じるのかもしれない。

でも、こんな晴れの日是不安より飛び出したい衝動の方が大きくなる。どう飛び出せばいいのかわからないまま、月日だけが過ぎ去って行くのだ。

「カイト・・・」

小さく囁いた声は、口の中だけだったはず。

「呼んだ？」

誰にも聞こえてないはずの囁きは、背後に立つ人物にしっかりと受け止められていた。

「どうして？聞こえたの？」

ゆっくりと振り向いたあたしに、カイトは不思議な笑みを洩らす。「何となくね。俺も今来たところだし。ユウの姿が見えたから」

しなやかな手足のカイトは優しげな笑みでこちらに歩み寄ってきた。そして、あたしと同じ様に窓枠に寄り掛かる。

「また、外を見ていたの」

あたしの顔を覗きこむ様にカイト。

「そう。外を見ていたの」

「どこか、飛んで行きたいの？」

カイトはあたしの事を一番理解している人物だと認めざるを得ない。

「そう。どこかに飛んで・・・」

言い終える前に、あたしはカイトに手を引かれ教室の外に連れ出されていた。駆け足のカイトはあたしを引っ張りながら悪戯な笑みで振り返る。

「じゃあ、飛び出しに行こう」

悪戯な笑みに救われた様な気がした。

いつだってカイトはあたしに力を貸してくれる。飛び出す背中を押すだけじゃなく、いつでも一緒に飛び出して走り出してくれるんだ。

柔らかな茶色い髪が風になびく。この瞬間、この一瞬がとても眩しかった。

やっぱりあたしをここまで理解してくれる人物はカイトしかない。希を叶えてくれるのも、ずっと寄り添ってくれるのも、きつと一生涯カイトだけな気がする。

あたしは少しだけ頭が悪くて良かったと思った。

こんな想い普通なら抱かない。いや、抱けない。

自分に似ている様で、似ていない。

「ユウ、ユウ早く」

強く繋いだ手は、同じ遺伝子の賜物。

熱く滾る血は同じDNA。

あたしが飛び出して生きたかった所はきつと、この笑顔のカイトの傍。

すべてを捨てて、一緒に飛び出して――――

f i n

（後書き）

叶わぬ想いに希望を込めて書いた話です。
評価頂けるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7271a/>

Blood

2010年10月11日01時38分発行